

(別紙様式)

(A 3判横)

令和7年度学校自己評価システムシート（学校法人昌平学園 昌平高等学校）

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」
重点目標	1.才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2.人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3.健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4.国際教育：国際的視野に立つて考え、行動する力を養成する。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	3名
	卒業生	1名
	学識経験者	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価									学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価（3月）				実施日 令和8年3月26日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	①ICT 活用は多様化しつつあるが、生徒の主体的・能動的な学習をさらに引き出す環境へと最適化する。 ②個別面談等は実施できているが、自己実現に向けた中長期的な計画を組織的に支援・追跡する体制を確立する。 ③外部検定(英検・GTEC 等)の受検は定着しているが、進路の早期実現に向けてより上位級・スコアの取得を促す。 ④自習室の利用状況を分析し全校生徒の自学自習を習慣化する。 ⑤探究活動の枠組みはあるが、各教科等と横断的に連動させ、多様な入試に対応する力を育成する。	①ICT の活用や的確な模試分析のフィードバックにより、生徒の主体的な学習意欲を喚起できているか。 ②進路目標の達成に向け、学校全体で情報を迅速に共有し、組織的かつ適切な指導体制を整えられているか。 ③PEP と連動し、英検をはじめとする各種資格試験への計画的な挑戦と取得を促しているか。 ④自学自習の習慣化に向け、生徒個々の学習計画の策定や自己管理に関する適切な支援を行っているか。 ⑤探究活動を各教科・資格と横断的に連動させ、多様な入試に対応できる論理的思考力や課題解決能力を育成できているか。	①分掌配置の見直しで授業準備時間を生み出し、模試データの可視化や入試研修・ICT 実践例の共有により指導力を向上する。 ②大学連携イベントの企画や入試情報のタイムリーな発信を行い、部活動等では生徒自身が計画を立てる指導体制へシフトする。 ③PEP と連動した受検推奨や校内受検制度の拡充により、外部検定に対する心理的・物理的なハードルを下げる。 ④自習室の環境整備とチューター配置の最適化を図り、スタディサプリ等を用いた自主学習のモデルケースを提示して自発的な取組みを求める。 ⑤探究テーマに教科・資格の要素を組み込み、成果発表や論文作成を通じて、多様な入試に活かせる論理的思考力・課題解決能力を錬成する。	①教材研究の確保や ICT 活用、模試分析による指導は進むが、一部教員への業務偏重を再調整する必要がある。 ②高大連携授業や進路相談等のイベントを積極的に展開し、有益な大学情報を得る機会を安定して提供している。 ③担任による検定状況の把握と入試指導は行っているが、受検者数の底上げに向け環境整備と受検推奨を強化する。 ④自習室の利用については一部課題があるため、規律向上を図るとともに ICT 教材の活用定着を促す。	①7 月の授業アンケートに基づく授業改善や ICT 活用、および模試分析による具体的な進路対策を講じられているか。 ②各種進路行事や面談を通し、生徒が目標に向けて主体的に取り組める指導体制を構築できているか。 ③資格取得の挑戦を促すため、受検のメリットや日程等の情報を生徒・保護者へタイムリーに伝達できているか。 ④委託業者と連携して利用状況を把握し、自習室の環境整備や通室への働きかけを行っているか。	①アンケートに基づく授業改善や模試分析による個別フィードバックは効果的に機能するが、教員間での ICT 活用の質・頻度の個人差を解消するため、相互参観や情報共有を推進する。 ②東京大学をはじめとする最難関国公立大学の合格、難関私大への実績を伸ばさせるとともに、生徒一人ひとりの学力や適性に応じたきめ細かな伴走支援を学校全体で組織的に実施する。 ③令和7年度の高校全体における英検3級以上取得率は83%と昨年度の85%より若干下回った。しかし、2級取得率46.2%と昨年の45.8%より向上している。この実績をベースに、入試を見据えた校内対策講習を計画的に実施し、さらなる上位級(2級・準1級)の取得を強化する。 ④定期考査期間中に350名を超える利用者を記録するなど自習室が活性化しており、放課後の部活動終了後に直行して学習に取り組む「文武両道」の習慣化をさらに定着する。	B	①研究授業の実践や研修への参加を通じ、教員個々の授業力向上を支援する環境を整える。また、学校としての課題を全校で共有・分析し、さらなる組織の活性化へと繋げる。次年度に向けた進路実績の具体的な数値目標を設定するとともに、ICT 活用については引き続き校内研修等を通じて実践例の共有体制を維持・強化する。 ②次年度も学校主催の進路イベントを効果的に実施し、外部イベントの情報提供も迅速に行うことで、生徒が主体的に有益なキャリア情報を取得できる環境を整える。 ③パワー・イングリッシュ・プロジェクト推進に向けた情報発信を継続する。現状の検定取得状況を分析した上で、大学受験における具体的な活用方法(優遇制度等)を生徒に分かりやすく伝達し、より高い目標級への挑戦を促す。 ④学習室の利用率向上は成果である一方、利用マナーや集中力の維持に課題が見られる。次年度は運営委託業者とも連携し、利用ルールの再整備や環境改善を迅速に行い、質の高い自学自習空間を確保する。	①今年度の進学実績は、東京大学への合格者を1名輩出したものの、国公立大学合計で72名(前年度98名)、早慶上理 ICU で63名(前年度98名)、G-MARCH で136名(前年度193名)と、多くの指標で前年度を下回る厳しい結果となった。この結果を真摯に受け止め、次年度以降の進学実績のV字回復に向けて、現状の課題を徹底的に分析する必要がある。今後は学習環境のさらなる整備を進めるとともに、教員の授業力向上や指導体制の強化に向けた具体的な取り組みを迅速かつ強力に推進していく。②変動の激しい大学入試改革の動向を的確に分析し、生徒の学力向上に向けたさらなる意識改革や、学習モチベーションを喚起・維持できる組織的なアプローチを積極的に展開していただきたい。 ③各種資格の取得が大学進学において大きな優位性を持つ現状を踏まえ、生徒にとって有益な情報をタイムリーに発信し、生徒の将来の可能性を広げる積極的な働きかけと指導を期待する。 ④学習意欲の高い生徒の増加に伴い、自習室(学習室)の利用者が非常に増えている。生徒がより集中して学習に励めるよう、ハード・ソフト両面でのさらなる環境整備を進めてもらいたい。	評価：B
2	①基本的な生活習慣(日常のマナーや身だしなみ、継続的な学習習慣)の確立に向けた指導の徹底が課題となっている。 ②生徒会活動や課外活動など、生徒が主体的に参画し活躍できる機会がさらなる充実が必要である。 ③生徒同士、あるいは生徒と教職員・地域とのコミュニケーションスキルを向上させるための環境づくりが求められている。	①生徒が頭髮や服装等の校則を遵守するとともに、公共交通機関や自転車等の利用における通学マナーを適切に実践できているか。 ②学校行事や生徒会活動、部活動等の課外活動において、生徒が主体的・積極的に参加し、充実した活動を展開できているか。 ③あらゆる教育活動を通じて、教員と生徒が積極的にコミュニケーションを図る機会が創出され、良好な信頼関係が構築できているか。	①日常的な登校指導等により現状把握を徹底する。また、担任を中心としたホームルーム指導や学年集会を通じて継続的なマナー・身だしなみ指導の実施と、規律ある環境づくりを行う。 ②運動部の活動充実に加え、文化部の発表機会の創出、ボランティア活動等の積極的な企画・周知を行い、生徒の主体的かつ幅広い参加を促す。 ③定期面談の計画的な実施による生徒の状況把握と、個々に寄り添ったきめ細かな対話・相談体制の構築、および学習や諸活動への意欲喚起を行う。	①登下校時の通学マナー等について、地域・外部から一部指摘を受ける事案があった。特に自転車通学者に対しては集会等で適宜周知・指導を行ったが、今後は担任や部活動顧問等とも連携し、更なる指導の徹底を図る。 ②文化部における校内発表会の実施など、各活動において一定の成果と充実が見られた。今後も継続的な支援を行う。 ③担任を中心とした定期・随時の面談等を通じ、生徒との積極的なコミュニケーションと迅速な実態把握に努めることができた。	①登下校時や校内におけるルール遵守状況を的確に把握し、外部からの意見等を反映した全体周知や適切な指導を実施できているか。 ②生徒会活動をはじめとする諸活動において、生徒が充実感や達成感を得られるような企画・運営の支援ができているか。 ③生徒の実態把握に基づき、学習や課外活動等に対する生徒の主體的・積極的な取り組みへと繋げるアプローチを行い、成果を上げられているか。	①登下校時の通学マナー(特に自転車通学者の並列走行等)に関して外部から指摘を受ける事案があり、安全面での課題が残った。学年集会やLHR 等で適宜周知・指導を行ったが、次年度に向けても全教職員による継続的な指導とマナー改善へのアプローチが必要である。 ②生徒会を中心に、各部活動の発表機会を継続的に創出できたことは大きな成果である。今後は校内にとまらず、地域や外部への発信を視野に入れた企画の検討を進めたい。 ③各種面談や日常の関わりを通じて、メンタルケアを含めたきめ細かな生徒アプローチを実践した。生徒が前向きに学習や諸活動に取り組める環境づくりにおいて、一定の成果が見られた。	B	①教職員間におけるルールと指導方針の適宜確認を徹底し、一貫性のある指導体制を構築する。指導の基準や熱量に差が生まれないよう、学年や分掌間での連携、調整を緊密に行う必要がある。 ②生徒会が中心となる企画をさらに活性化させ、生徒の活躍の場を拡充する。その一環として、外部機関や地域社会との積極的な交流を伴う活動を企画・推進していきたい。 ③面談等を軸とした生徒の現状把握については一定の環境が整ったため、次年度もこの取り組みを継続・発展させる。引き続き、生徒の変化に迅速に対応できる体制を維持していく。	①日常の安全管理を徹底し、事故や怪我の防止に向けた継続的な指導を望む声がある。また、昌平高校の生徒としての自覚と誇りを持ち、自律的な行動ができるよう、さらなるアプローチを期待する意見が寄せられた。 ②各種行事における例年の工夫や企画力は評価されている。一方で、保護者もその成果や活動を直接参観・視聴できるような環境づくりや、情報発信の充実を求める要望がある。 ③生徒一人ひとりの個性や可能性を伸ばすため、個々の状況や課題に応じたきめ細かな助言、および具体的なステップアップにつながるアドバイスを継続してほしいという意見があがった。	評価：B
3	①学業と部活動の双方に全力で取り組む「文武両道」が実践できる環境の整備、および生徒のタイムマネジメント(自己管理能力)の向上が課題である。 ②学年や担任等を中心に、生徒が抱える学習・生活・進路など多面的な悩みを早期に把握し、きめ細かく相談に応じられる体制のさらなる強化が求められている。	①文武両道の実践に向け、担任と部活動顧問が緊密に連携し、生徒個々の学習状況や活動実態を的確に把握できているか。 ②生徒への定期・随時面談の実施、および必要に応じた保護者との連携(三者面談等)を通じて、生徒の抱える悩みや解消や精神的な支援が適切に行われているか。	①部活動顧問による計画的な活動基盤の構築と、効率的な練習メニューの工夫。学習面においては、隙間時間の有効活用などを具体的にアドバイスし、生徒が学業と部活動を効果的に両立できるよう指導・支援する。 ②担任による日常的な細やかなクラス指導を基盤としつつ、SNS に関する情報モラル講習会をはじめとする各種講習会を定期的に実施し、生徒の不安やトラブルを未然に防ぐ取組を推進する。	①限られた活動時間の中で生徒が意欲的にトレーニングに励める環境を整備する。同時に、学習面においても高い意識を維持できるよう、日常的な生徒指導・声かけを徹底する。 ②担任や学年団が密に連携し、定期的な講習会の実施により、生徒個々の状況や課題を正確に把握する。これにより、一人ひとりに応じた迅速かつ適切な支援につなげる。	①顧問による効率的な練習環境の構築と隙間時間の活用指導により、生徒が限られた時間の中で部活動と自主学習を高いレベルで両立できているか。 ②担任による日常的な対話を通じてきめ細かな実情把握と、定期的な講習会の実施により、生徒の悩みや SNS 等のトラブルを未然に防ぎ、早期発見につなげられているか。	①各部顧問による活動時間の調整や練習の効率化により、関東・全国大会への多数出場という実績を残しつつ、野球部生徒の名古屋大学合格や特准アスリートクラスからの国公立・難関私大合格など、高いレベルで文武両道を体現する生徒が着実に増加している。 ②担任および学年団の強固な連携により、生徒の現状を網羅的に把握する組織的体制が構築された一方、SNS 等の利用体制には依然として課題が残るため、今後も定期的な講習会の実施等を通じて課題解決とトラブルの未然防止を継続していく。	B	①生徒の学習習慣の早期確立と進路実績への確実な還元を目指し、模範となる卒業生の実践例(学習法やスケジュール)を具体的に提示するなど、さらなる学力向上と成長を促す効果的な指導・サポート体制を強化する。 ②担任による定期・随時の面談体制を継続して生徒の実情把握に努めるとともに、SNS トラブル等の未然防止に向け、他校の先進的な取り組みや外部事例を参考にし、より実効性の高い情報モラル講習会を展開する。	①部活動と学業を両立させて進路目標を達成した実績を評価しつつ、生徒が現状に満足することなく、さらなる高い目標に挑戦し自己実現を図れるような指導環境の再構築を期待する。 ②多感な時期にある生徒の悩みや課題に対し、担任を中心とした全教職員が組織的に状況を把握するとともに、保護者との緊密な情報共有や連携を図ることで、課題解決に向けた迅速なアプローチを要望する。	評価：B
4	①PEP のさらなる推進を通じて学校全体のグローバル教育の基盤を強固にするとともに、実践的な英語力強化に向けた指導体制の拡充を図る。 ②国内外での多彩な語学研修をはじめとする各種国際交流行事の充実化を推進し、希望する生徒に対して異文化理解と語学力を深める多様な実践の機会を提供する。 ③本校の国際的な教育環境の魅力をさらに高めることで、多様な背景を持つ帰国子女の募集活動をこれまで以上に強化し、校内の多様性とグローバル化をより一層推進する。	①全教職員が英検全員受験をはじめとする英語力向上への取り組みを一体となって実践し、授業を通じて生徒が実践の場で活用できる高い英語力や会話力を確実に身につけられているか。 ②修学旅行をはじめとする国内外の各種海外研修において、事前・事後学習を含めて生徒が国際的な視野や深い学びを得られる最適な環境作りができているか。 ③帰国子女の受け入れ体制を計画的に整備するとともに、一般生徒との活発な交流機会を創出することで、互いに刺激し合い積極的にコミュニケーションを図れる多文化共生の環境を構築できているか。	①全教職員の共通理解のもと、英検全員受験をはじめとする英語力強化の取り組みを組織的に推進し、生徒がより高い目標に向かって意欲的に英語学習に励むことができる環境を整える。 ②海外語学研修をはじめとする各種国際プログラムの案内や情報提供を積極的に実施し、生徒が広い視野を持って主体的に挑戦し活動の幅を広げられるよう支援する。 ③帰国子女生徒との日常的な交流機会を意図的に創出することで、一般生徒の異文化理解や英会話学習に対するモチベーションを刺激し、互いに高め合える環境づくりを推進する。	①英検合格者の更なる増加に向けて英語科教員を中心とした個別・組織的な二次試験対策を実施するとともに、「International Arena(日本語禁止部屋)」等の活用により、ネイティブ教員との積極的な対話を通じた実践的な会話力の向上が図られている。 ②希望者を対象とした海外語学研修への参加者が着実に増加しており、研修への挑戦を通じて、より高いレベルでの英語力や国際感覚の獲得を目指す学習意欲の高い生徒が育っている。 ③校内における帰国子女生徒との日常的な交流が一般生徒にとって大きな刺激となり、生きた英語に触れ、主体的に語学を学びたいという学習モチベーションの向上に直接つながっている。	①英検を活用した大学受験など生徒に有益な情報や的確に共有するとともに、個々の資格取得状況を綿密に把握し、さらなる上位級取得に向けた組織的な個別指導や働きかけを効果的に行っているか。 ②海外語学研修における生徒の取り組みや具体的な成果・効果を全教職員で共有し、この研修が学校全体における英語学習へのモチベーション向上にどの程度寄与しているかを多角的に検証できているか。 ③帰国子女生徒との日常的な交流が一般生徒の語学学習への意欲向上に繋がっているかを検証するとともに、海外在住の日本人に対して本校の魅力を発信し、認知度を高めるための具体的な広報活動を実践できているか。	①各担任によるホームルームや個別面談等を通じて英検取得に向けた積極的な働きかけが行われている一方、クラス間での資格取得率に差が生じているため、今後は学年全体でのさらなる底上げと均一な指導体制の構築が課題である。 ②修学旅行や海外語学研修の実施により英語学習への意識が高い生徒が着実に増加し、希望者対象行事の参加希望者数も伸びていることから、今後はプログラムの増設やさらなる充実化に向けた具体的な検討を進める必要がある。 ③帰国子女生徒との日常的な交流が一般生徒の英語学習に対する意欲・モチベーションを大きく引き出しているとともに、募集活動においても海外での進学説明会等への出展を通じて、本校の国際的な認知度を高める取り組みが積極的に展開されている。	B	①英検等の資格取得が進路選択に極めて有益であることを生徒に周知しモチベーションを高めるように、コース・クラス間での意識の格差を解消すべく、全教職員が学校全体の共通課題として指導・推進体制を強化する。 ②修学旅行や海外語学研修、海外ホームステイ・サマースクールをはじめとする各種プログラムの参加者が増加している実績を踏まえ、次年度は新たな国際交流プログラムの新設や既存プログラムのさらなる充実化を計画的に進める。 ③海外での対面募集活動の成果として高まった本校および部活動の認知度をさらに活かすため、今後も帰国子女の受け入れ体制や教育環境の整備を計画的かつ積極的に推進し、多様な生徒が活躍できる基盤を強固にする。	①パワー・イングリッシュ・プロジェクト(PEP)が学校全体の取り組みとして継続的な成果を上げている実績を評価しつつ、今後は各種資格取得における具体的な成果を精査・検証し、抽出された課題の着実な改善に努めることを要望する。 ②生徒の国際的な視野や学びの幅をさらに広げ、知的好奇心や主体的な興味・関心を強く引き出すことができるような、新たな海外研修や国際交流プログラム等の積極的な企画・提案を期待する。 ③海外での広報活動により高まった認知度を最大限に活かし、帰国子女の募集活動をさらに加速させるとともに、校内における一般生徒との活発な交流を通じて学校全体のグローバル化と活性化を強力に推し進めることを求める。	評価：B

(別紙様式)

令和7年度学校自己評価システムシート（学校法人昌平学園 昌平中学校）

(A3判横)

目指す学校像	生徒一人ひとりの進路希望を実現するとともに、他者を思いやる優しさ、困難に立ち向かう逞しさ、自ら知を求める積極さをあわせ持ち、広く社会に貢献・奉仕しようとする人材の育成を図る。 教員のモットー「手をかけ 鍛えて 送り出す」								
重点目標	1. 才能開発教育：個々の生徒の能力を最大限に引き出す。 2. 人間教育：高い品性と正しい判断力を養成する。 3. 健康教育：心身ともに健康な人間を育成する。 4. 国際教育：国際的視野に立つて考え、行動する力を養成する。								
達成度	<table><tr><td>A</td><td>ほぼ達成(8割以上)</td></tr><tr><td>B</td><td>概ね達成(6割以上)</td></tr><tr><td>C</td><td>変化の兆し(4割以上)</td></tr><tr><td>D</td><td>不十分(4割未満)</td></tr></table>	A	ほぼ達成(8割以上)	B	概ね達成(6割以上)	C	変化の兆し(4割以上)	D	不十分(4割未満)
A	ほぼ達成(8割以上)								
B	概ね達成(6割以上)								
C	変化の兆し(4割以上)								
D	不十分(4割未満)								
※学校関係者評価実施日とは、法人評議委員により、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。									
出席者	学校関係者 3名 卒業生 1名 学識経験者 4名								

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価									学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標						年 度 評 価（3月）			実施日 令和8年3月26日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	中間評価	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	①国際バカロレア（IB）授業における探究的な学びに加え、主要5教科の授業・補習等を通じて基礎的・基本的な知識の確実な習得と定着に向けた指導を徹底する。 ②校外学習や多彩な体験プログラムを通じて主体的に思考する基盤を養うとともに、計画的なキャリア教育の実施により、生徒が自らの将来設計について深く考える機会を創出する。 ③実践的な学力と客観的な成果の指標として英検や数検をはじめとする各種資格取得を目標に掲げ、生徒の挑戦を後押しする組織的な検定対策やサポート体制を確立する。 ④生徒が自ら目標を設定して主体的に学習に励むことができるよう、放課後の学習環境の整備や面談指導等を通じて、持続可能な自学自習の習慣の定着を図る。	①アクティブラーニングの導入や授業内の工夫により、生徒の主体的な学びと基礎知識の確実な習得を両立させ、学力推移調査等の客観的なデータに基づく適切な学年目標を設定できているか。 ②体験プログラムや調べ学習を通じて学びの幅を広げ、成果発信によるプレゼンテーション能力の向上を図るとともに、中3対象の特別授業等を通じて多角的な進路理解を促せているか。 ③パワー・イングリッシュ・プロジェクト（PEP）に基づく英検全員受験において、組織的な対策の実施や個別の働きかけを行い、生徒の資格取得率を確実に向上させることができているか。 ④担任による日常的な面談や指導を通じて、生徒自身が実効性のある学習計画の策定や適切な目標設定を行えるよう、個々の課題に応じた進捗サポートや助言を継続して行えているか。	① 主要5教科におけるICTを活用した視覚的な授業展開や、教員間の積極的な授業見学・情報交換を通じて授業の質を向上させ、生徒の基礎知識の確実な習得と定着を図る。 ② 生徒が新たな学びや気付きを得られるよう、事前・事後学習を含めた校外学習や各種体験学習プログラムの選定・内容の充実を工夫して講じていく。 ③ 担任や学年団が中心となって英検全員受験をはじめとする各種検定への挑戦を促すとともに、各教科において合格に向けた対策を計画的かつ組織的に実施する。 ④ フォーサイト（スケジュール帳）やGoogle Classroomを活用した個別計画の立案・習慣化を推進し、自習室やSHシステムの自用、講習の実施により、各自が課題を克服できる学習環境を整備する。	①国際バカロレア（IB）担当教員を中心に授業でのICT活用が積極的に進み、生徒の学びの幅と学習意欲が向上するとともに、主要5教科における基礎知識の習得・定着に向けた指導も並行して着実に実践されている。 ②事前・事後学習を含む各種校外活動や体験型プログラムの実践を通じて、生徒が多様な経験から新たな気付きや深い学びを得て、自立的な人間性の成長へと繋げることができている。 ③各担任による日常的な英検合格への前向きな働きかけが功を奏し、生徒一人ひとりが高い目標意識を持って主体的に検定取得に向けた学習に取り組む体制が構築できている。 ④フォーサイト（スケジュール帳）やICTツールを活用した自学自習の計画立案・定着が進み、自主学習への意欲を高める生徒が増加している一方、学習の習慣化に課題を抱える生徒への講習等による継続的なフォロー体制の強化が求められている。	①各教員が授業評価アンケート結果から生徒の課題を把握し、授業改善や指導内容のブラッシュアップを適切に実践できているか。 ②生徒の主体的な学びや探究心を効果的に引き出すための環境作りや、多様な体験の機会を工夫して提供できているか。 ③各種検定の優位性や有益な情報を的確に発信して生徒の意欲を喚起し、合格に向けた組織的なフォロー体制を構築できているか。 ④担任がフォーサイト（スケジュール帳）やICTツールを有効活用し、生徒が主体的に学習計画を立案・実践して学習習慣を定着できるよう指導できているか。	①ICT活用による生徒の興味関心を高める授業展開と基礎知識の定着を両立させ、学力推移調査のデータ分析に基づいた学年ごとの効果的なフォロー体制の構築や教員の指導力向上を図ることができた。 ②生徒の気付きを重視した各種体験プログラムは充実した学びの機会となり、特にコミュニティ・プロジェクト発表会では生徒の創意工夫によるプレゼンテーション能力の顕著な向上が見られた。 ③全校の英検取得率99.7%、中3の準2級以上取得率78.5%となり、各学年の目標達成に向けて年間を通じた段階的な検定対策講習を組織的に実施したことが確かな成果へと繋がった。 ④自学自習の習慣化や高い学習意欲を持つ生徒が着実に増加している一方、依然として自立的な学習に課題を抱える生徒への指導・フォローの継続が学年団全体の共通課題となっている。	B	①現状の指導法に満足することなく教員間の切磋琢磨による授業改善を推進し、学力推移調査や定期考査の客観的なデータ分析に基づいた効果的な個別学習指導・助言体制を確立する。 ②次年度以降も生徒の知的好奇心や主体的な探究心を刺激する新たな体験プログラムの開発を継続し、より質の高い多様な学びの場を工夫して提供する。 ③成果を上げている英検等の組織的な資格取得の取り組みに満足することなく、生徒がさらに上位級の取得を目指して主体的に挑戦できる環境や指導体制をいっそう強化してもらいたい。 ④担任や学年団が中心となって生徒個々の具体的な目標設定と実行力のある学習計画の策定を支援し、生徒の状況を教員間で密に共有しながら適宜適切な助言やフォローを行う。	①授業展開に不可欠なICTの活用スキルを学内外の研修等を通じて全教員で高め、同時に担任を中心とした個別面談等により生徒の自立的な学習習慣の確立を強力に後押しすることを期待する。 ②多彩なプログラムによる経験や気付きが生徒の学習意欲向上に寄与している実績を評価し、今後もこれらを継続するとともに生徒の視野をさらに広げる新たな企画の提案を期待する。 ③高い成果を上げている英検等の組織的な資格取得の取り組みに満足することなく、生徒がさらに上位級の取得を目指して主体的に挑戦できる環境や指導体制をいっそう強化してもらいたい。 ④日常的な学習計画の策定や個々の目標把握に基づき、教員が丁寧な個別アドバイスを行う現在の優れた指導環境を高く評価し、次年度以降もこの継続的なサポート体制を維持・発展させていくことを期待する。 評価：B	
2	①校内外におけるマナー指導と基本的生活習慣の確立に向けた、日常的かつ積極的なアプローチの継続とさらなる徹底が求められた。 ②生徒会活動の活性化に向けた本部役員の取り組みが評価され、今後は生徒が主体的に参加できるボランティア行事等の新規創出に期待が寄せられた。 ③コミュニケーションスキルの向上を目指し、生徒同士が多様に関わり合える実践的な取り組みのさらなる活性化が求められた。	①全教職員の連携による校内外でのマナー指導（校則遵守・挨拶の励行等）や、交通事故防止に向けた自転車の乗車マナー指導を徹底できているか。 ②本部役員を中心として、新たな生徒会活動の発信や校内外のボランティア活動への参画など、活動の多様化を図ることができているか。 ③行事等の場において生徒間の関わり（コミュニケーション）を促し、自身の意思を明確に発信・表現させることができているか。	①生活指導部を中心とした校内外の巡回指導を徹底するとともに、自転車通学者対象の集会等を通じて生徒指導体制の構築・強化を図る。 ②地域や外部団体と連携したボランティア活動を推進し、校内外における主体的活動の多様化と充実を検討・実施する。 ③各種行事における取り組みに加え、授業内での調べ学習やプレゼンテーションの導入等により、生徒が主体的に表現・活動する場を拡充する。	①公共交通機関等の利用マナーについての外部からの指摘があり、日常的なマナー指導のさらなる徹底が課題となった。 ②中学単体での活動実績が少なかったため、文化祭等で高校生と連携した活動機会を設けるなど、次期に向けた工夫が必要である。 ③宿泊行事において英語による指示伝達を取り入れるなど、生徒の学びの幅を広げる実践的な取り組みにおいて成果が見られた。	①生徒が校則を正しく理解し、日頃の指導を通じて自己の行動に自覚を持ったための取り組みができているか。 ②生徒会が主導となって新たな行事を創出するなど、生徒の主体的な活動機会を生み出すことができているか。 ③授業展開の工夫や各種行事を通じて、生徒のコミュニケーション能力を向上させる機会を適切に提供できているか。	①自転車通学や乗車マナーに関して外部からの指摘を一部で受けており、ホームルームでの指導に留まらず、学年集会等を通じて全生徒へ指導・呼びかけを徹底し、改善を図る必要がある。 ②昌平祭での企画運営や高校生との連携など、生徒会主体の活動機会の拡充に成果が見られた。次年度は中学校独自のボランティア活動など、さらなる企画の構築・展開を促していく。 ③教員間での緊密な情報共有に基づき、生徒の成長を促す多様な工夫を講じたことで、適切なコミュニケーション指導体制の構築が進み、好ましい変化が見られ始めている。	B	①事後対応から予防的指導への転換を図るため、年度初めの全体集会等で校則やマナーの周知徹底を行う。あわせて、課題発生時には教職員間で迅速な情報共有を行う体制を強化する。 ②地域交流活動をはじめ、生徒が主体となって企画・立案できる環境を整備する。また、生徒会等を中心に新たな企画を継続して創出できる組織体制を構築する。 ③生徒の抱える諸課題に対し、担任が個人で抱え込むことなく、管理職を含めた全教職員で組織的に対応し、生徒の成長を支える指導体制を確立する。	①生徒の成長において生活指導は極めて重要である。今後も学校全体で生徒を育む体制を強化し、生徒一人ひとりが「昌平生としての誇り」を持つて行動できるよう、継続的な指導を期待する。 ②生徒会活動の活性化は、生徒が主役となる貴重な機会を創出する。教職員においては、生徒の主体性を尊重しつつ、適切な助言や積極的な後押しに努めてもらいたい。 ③多感な時期特有の不安や悩みを抱える生徒に寄り添い、丁寧な個別アプローチや働きかけを通じて、生徒自身が確かな成長を実感できる指導体制の構築を望む。 評価：B	
3	①体育・スポーツ・文化活動の推進を通じて生徒の豊かな人間性を育むとともに、さらなる活動の活性化に向けた支援体制の充実を図る。 ②安心・安全な学校生活の基盤となる教育相談をさらに充実させ、きめ細かなカウンセリングと組織的なアプローチによる生徒支援を強化する。	①各部活動における明確な目標設定と、その達成に向けた主体的・積極的な活動を展開できているか。 ②教育相談等の充実を図り、生徒個々の状況に応じたきめ細かな支援・指導体制を確立できているか。	①各部活動において大会等を見据えた計画的な活動を展開するとともに、限られた時間の中で生徒の意欲を引き出す指導上の工夫を講じる。 ②定期的な面談等を通じて生徒個々の学習状況やメンタル面を的確に把握し、担任を中心として組織的にフォロー・支援する体制を構築する。	①限られた活動時間の中でも指導の工夫を講じ、目標達成に向けた生徒の主体的な取り組みを引き出すことができている。 ②個別面談等の実施により生徒の状況を正しく理解し、組織的なサポート・フォロー体制を機能させることができている。	①課外活動における明確な目標設定と、達成に向けた生徒の積極的な活動を引き出すことができているか。 ②生徒の的確な状況把握に基づき、教職員間の情報共有と連動したきめ細かな個別フォロー体制を機能させることができているか。	①各種大会等での生徒の活躍の場が広がっており、日々の真摯な取り組みが着実な成果として表れている。 ②面談を通じた生徒の心理的サポート体制を維持しつつ、今後は学習意欲向上に向けた学年団でのアプローチ強化、およびSC（スクールカウンセラー）便りを活用した保護者との連携充実を図る必要がある。	B	①目標達成に向けた生徒の意識改革を図るとともに、技術力向上や結果のみに捉われず、部活動を通じた精神的成長を促す人間教育的なアプローチを推進する。 ②定期的な個別面談等を継続して実施し、生徒の精神面の変化や現状を的確に把握するとともに、メンタルケアと一体となったきめ細かな支援に努める。	①部活動などの課外活動や生徒会活動は、生徒の主体性を育む極めて有意義な機会である。生徒たちがより充実した活動を展開できるよう、今後もさらなる環境整備と指導の充実にも努めてもらいたい。 ②生徒との積極的なコミュニケーションを通じて学習や活動への意欲を高めるとともに、保護者との緊密な情報共有に基づいた「共通理解による指導」の継続を期待する。学校全体が一丸となり、より一層安心で質の高い教育環境が構築されることを望む。 評価：B	
4	①グローバル社会で通用する実践的な英語力の定着を図るとともに、発信力やコミュニケーション能力をさらに高める指導の工夫が必要である。 ②「SDGs」を共通テーマに、グローバルな視点から自ら課題を発見・探究する力を育成し、多角的な視野を養う取り組みを強化する。 ③国内外の研修を含めた実践的な学びの機会を積極的に提供し、生徒が主体的に体験・成長できる多様な学習環境の構築を推進する。 ④IB（国際バカロレア）プログラムの教育課程をさらに深化させ、探究型学習を通じた生徒の学習効果の最大化と定着を目指す。	①授業で修得した英語の知識を実践の場で活用し、自らの考えを発信できているか。 ②世界の動向に関心を持ち、様々な事象をグローバルかつ多面的に捉えられているか。 ③研修や修学旅行等の機会を活かし、生徒個々の実践的なスキル向上に繋がれているか。 ④MYP（中等教育プログラム）の展開により、グローバル人材の確実な育成に繋がれているか。	①英語授業での基礎定着を図るとともに、プレゼンテーション等発信力を習得させているか。 ②校外学習や日常の調べ学習を通じ、世界の諸問題に触れながら多角的な視野と探究心を養う。 ③修学旅行や語学研修（ブリティッシュルイズ等）を運動させ、授業の学びを実践・深化させる場を提供する。 ④アクティブラーニング（ディスカッションや調べ学習）の導入により、生徒の主体的な学びを推進する。	①英語Gでの基礎定着とIB英語でのプレゼン実施により、実践的な英語力を習得させているか。 ②グループディスカッションや調べ学習を通じ、主体的に多角的な視点で問題を考えさせられているか。 ③教員の英語による指示や、語学研修（ブリティッシュルイズ等）の企画により、実践の場を提供できている。 ④授業手法に関する教員間の情報共有を徹底し、指導スキルを向上させる環境を構築できている。	①学力推移調査で基礎定着を検証しつつ、IB授業により実践的な英語力の向上と適切な進捗管理ができているか。 ②探究型プログラム等の実施により、生徒が主体的に課題へ取り組み環境を構築できているか。 ③各種行事や希望者向け研修において、生徒の実践的な英語力向上に資する企画を提供できているか。 ④教員間での授業情報の共有を緊密に行い、組織的な授業の質の向上へと繋がれているか。	①IB授業では教員間の授業見学等により質が向上している。今後は基礎定着に向け、学習の習慣化を促す授業改善が必要である。 ②探究学習の推進により、生徒が自ら思考して課題を発見する力が着実に養われている。 ③各種行事での実践を通じた英語力の確認が、生徒のさらなる学習モチベーション向上に繋がっている。 ④ICT活用を含む授業手法の共有を教員間で実施できた。今後はこれを継続し、さらなる授業の質の向上を図る。	B	①学力推移調査から課題を抽出して指導体制を見直すとともに、IB授業ではプレゼン等を活用した授業手法の工夫により探究心・思考力を育む。 ②生徒の主体的な学びを促す働きかけを強化し、さらなる学習効果の向上を図る。 ③新規行事の企画・導入を含め、これまで以上に英語を実践的に活用できる環境を創出する。 ④教員間の情報共有による指導スキルの向上とともに、教職員全体がIBの本質を理解・実践できる研修体制を構築する。	①PEPを通じて多くの生徒が英語力向上に高い意識を持っており、今後は通常授業による基礎定着とIB授業のバランス良い推進によるさらなる成長を期待する。 ②主体的に学べる環境は生徒にとって極めて有益であり、今後も工夫を凝らした授業展開の継続を望む。 ③各種行事や日常的な英語での指示など、実践の場を創出する指導工夫の継続とともに、より一層充実したプログラムの提案を期待する。 ④教員間の情報共有や外部研修による授業の質向上への取り組みは非常に優秀であり、今後も継続的な指導体制の強化を望む。 評価：B	